



X 不変スー  
『有限性  
の後に』

2023.09.10  
THE FIVE BOOKS #1  
MOTOAKI IIMORI

はじめる

まえに

# 本日の内容

## ① 講師の自己紹介 [約20分]

- 講師の哲学的関心をとおして、メイヤスー哲学のおもしろさを紹介。

## ② 講義の形式 [約15分 + 休憩]

- 本講義の形式的なことについてお伝えします。
- このセクションの最後に、アイスブレイク (みなさんの自己紹介) を入れます。

## ③ 読書に向けたイントロ [約30分]

- 『有限性の後で』を読むために必要な事柄をお伝えします。
- 最後に「問いかけ」を共有します。

講師 〆

自己紹介

# 講師について

 @lwrdhtw

[https://researchmap.jp/motoaki\\_iimori](https://researchmap.jp/motoaki_iimori)

飯盛 元章 (いいもり・もとあき)

- 現在：中央大学文学部兼任講師
- 出身：中央大学大学院文学研究科哲学専攻卒  
早稲田大学第二文学部表現・芸術系専修卒
- 専門：A・N・ホワイトヘッド、G・ハーマンの形而上学



飯盛元章  
人文書院

闇の形而上学へ  
孤高の哲学者アルフレッド・ノース・ホワイトヘッド。事物の有機的連関を重視し、恐るべき密度と宇宙的壮さを併せ持つその思想は、長らく哲学界の傍流であった。しかし、現在、思弁的実在論、オブジェクト指向哲学など、21世紀の思想潮流のなかで再び注目されている。本書は、これまで事物の連続性が重視されてきたホワイトヘッド哲学に、存在の深き断絶の契機を見出し、ハーマン、メイヤースとの比較をふまえ、その哲学の全体性と独自性を描き出してゆく。光も届かぬ存在の彼方、想像力の彼方、宇宙の彼方へと哲学を導く、闇の形而上学の誕生。

- 『**連続と断絶—ホワイトヘッドの哲学**』  
(人文書院、2020年)
- 「**破壊の形而上学へ**」  
(寺本剛編著『リアリティの哲学』、中央大学出版部)
- 「**哲学はなぜ世界の崩壊の快楽を探究してしまうのか**」  
(現代新書ウェブ)

# 講師の哲学的関心 [意識]

## ■ 意識にかんする疑問 (中学生ぐらいのとき)

- この世界に、**内側から世界をとらえる存在**がいることの不思議さ。
- 自然科学によって外側から十全に記述できるものだけが存在していても良いはず。
- 感覚器官や脳をもっている、じつは意識がなく、内側からなにも感じていないロボットのよう生き物 (哲学的ゾンビ) がいたとしてもおかしくはない。そうしたことは可能。
- でも、なぜか意識は存在している (少なくとも私の)。意識は、余計な付加物ではないか？

## ■ 永井均との出会い (学部3年ぐらいのとき)

- 意識の問いの先鋭化。無数にある意識 (「私」) のうち、この〈私〉から世界が開かれていること不思議さ (「独在性」)。無数にある視点のうち、なぜこの視点からなのか。

## ■ ホワイトヘッドとの出会い (修士1年のとき)

- 内的視点をもたない死んだ物質のようなものは、そもそも存在しない。あらゆるものが内面性・主体性をもって活動している。そうした内面性が、一瞬一瞬いたるところで発生してくる世界。

# 講師の哲学的関心 [他者]

- **レヴィナス**との出会い (学部4年ぐらいのとき)
  - 私 (意識、主体性) をめぐる哲学から、反対に他者の哲学へ。
  - **絶対的他者**。私による把握から徹底的に逃れ去るもの (人に限定されない)。未来、死、他人
  - 私と他なるものとのあいだには強い断絶があり、両者はおなじ平面に属さない。
  - 他なるものとは、理解や想像できる領域の彼方。私の向こう側は、ブラックボックス。
  - 他者の哲学、**触れられなさ**をめぐる哲学のおもしろさ！
- ホワイトヘッドにおける**他者性のなさ**
  - あらゆるものが「現実的存在」である、とされる (おなじ概念で説明される)。根本的に異質で他なるものが存在しない世界観。
  - しかも、それらはたがいに強く関係しあい、たがいのうちに入り込む。連続的な世界。
- **ハーマン**との出会い (博士課程のとき)
  - 存在するものどうしは、たがいに断絶。たがいに隠れている。
  - ホワイトヘッド哲学 + 他者性 = ハーマン哲学

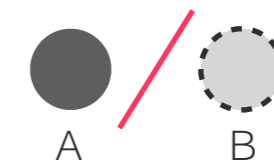
# 講師の哲学的関心 [断絶]

## ■ 他者性から断絶への言い換え

- 断絶 = 連続性が断ち切られること。断絶の境界線のこちら側とあちら側では、連続的なつながりが途切れている。
- この途切れがきわめて強いものであるならば、断絶の境界線の彼方はまったくの未知で、**他なるもの**となる。無関係の闇。

## ■ ふたつのタイプの断絶

### ① 共時的 (空間的) 断絶 : 共時的な項どうしのあいだに走る断絶



- 強度の高い共時的断絶は、他の項 (あるいは他人) を、交通の途切れたべつの宇宙へと変えることになる。自立性、自由の問題と結びつく。
- ハーマンの「実在的対象」。

### ① 通時的 (時間的) 断絶 : ある項の通時的な同一性に走る断絶



- 強度の高い通時的断絶は、この宇宙そのものの同一的なあり方を根底から**破壊**し、まったく異なる新たな宇宙を到来させることになる。新しさの問題と結びつく。
- **メイヤスー**の「**絶対的偶然性**」。



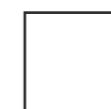
# 講師の哲学的関心 [破壊]

- メイヤスーの「**絶対的偶然性**」概念との出会い (博士課程のとき)
  - **通時的断絶・破壊**を表現したもの。
  - 哲学史上もっともラディカルな偶然性！
- 「絶対的偶然性」の特徴 ①：**偶然的に理由なく存在する + 理由なく別様になる**
  - いま存在するものがたんに偶然的である、というだけではない。
  - あらゆるものは理由なく存在し、それゆえに**理由なく別様になりうる**。
  - 「**すべてを破壊しうる時間**」。
  - 可能世界論における偶然とは異なる。可能世界論の場合、別様な法則が支配する可能世界がこの現実世界のサイドに無数に存在する。だが、この現実世界そのものが別様になることはない。無傷のまま。
  - メイヤスーの偶然性概念：この現実世界そのものがあるとき破壊され、別様になりうる。他なる世界、異世界になる。通時的に並んだ可能世界。

可能世界論



メイヤスー



# 講師の哲学的関心 [破壊] [2]

## ■ 「絶対的偶然性」の特徴 [2] : 破壊の強さ

- 絶対的偶然性は、つぎの瞬間にいかなるものでも破壊し、いかなるものでも理由なく生じさせうる。
- 「それは**デカルトの神に匹敵する《全能性》**であり、あらゆることを起こせる、考えもつかないことまで含めて」 (111頁)。
- 神の全能な力だけが、いかなる制限もなしに世界に浸透している。ただし、それを制御する神は不在。神の善性によって、全能性が束縛されることはない。

## ■ 「絶対的偶然性」の特徴 [3] : 破壊の適用範囲の広さ

- 個々の事物も、世界そのものも、**自然法則**も、**論理法則**も、**形而上学的法則**も、なにもかもがこの破壊に巻き込まれうる。
- 例：ビリヤードボールが変な方向に飛んでいく (自然法則の破壊)  
猫が猫であると同時に猫でないものになる (論理法則の破壊)  
事物がたえず生成変化する世界から、無変化の世界になる (形而上学的法則の破壊)

# 講師の研究活動

- 単著を準備中…
  - 『**暗黒の形而上学** (仮)』 (青土社、企画段階)
    - ここ数年のあいだに書いた論文をまとめたもの。
    - 「断絶」パートと「破壊」パートから成る。
    - ホワイトヘッド、ハーマン、メイヤスーなどについての議論が中心。
  - 『**破壊の哲学** (仮)』 (講談社選書メチエ)
    - 練りつつ執筆中。現時点でプロローグは完成。
    - メイヤスーの「絶対的偶然性」概念を洗練・強化させ、「破壊の形而上学」という立場を展開する本。
    - Metaphysics of Destruction (破壊の形而上学)、略してMOD。

有料のイベントのため、一部のみ公開